

心理学実験Ⅱ ～2017

科目コード **FB2506**



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR(実験)	1年以上	中村 修・大関 信隆・平川 昌宏 柴田 理瑛・平泉 拓

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

科目の概要

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もその一つです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいます。心理学では、特定の要因（独立変数とよびます）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを中心にしようとする手法があり、これを実験法とよんでいます。条件を厳密に統制するということに実験法の特徴がありますが、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

- 1) 心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。
- 2) 「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。
- 3) 「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。
- 4) 実験法という心理学的方法論の特徴を説明できる。
- 5) 基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。
- 6) 実験で得られたデータを統計的に分析・考察し、レポートとしてまとめることができる。

■教科書（「心理学実験Ⅰ」「心理学研究法Ⅱ」と共通）

- 1) 高野陽太郎・岡 隆編『心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし 補訂版』有斐閣アルマ、2017年（補訂版でなくても可）
- 2) 『福祉心理学科スタディ・ガイド（第3版）』東北福祉大学（第3版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2017年10月

※教科書配本方法については「心理学実験Ⅰ」の教科書欄p. 49～50をご覧ください。

（スクーリング時の教科書）スクーリングでは教科書は使用しません。適宜、資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■評価の方法・基準

①スクーリング受講+②実験レポート（3つ）提出・合格+③単位認定レポート（1課題）提出・合格で単位を修得します。

- ①スクーリング受講：オンデマンド・スクーリングを受講してください。
- ②実験レポート（3つ）提出・合格：3種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または下記期限までに提出して合格することが必要です。1種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。
- ③実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。
- ④実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。
- ③単位認定レポート（1課題）提出・合格：スクーリング受講後に、p.72記載の「単位認定レポート課題」に示す4つの課題の中から1つを選び、期限までにレポートを作成して提出してください（字数は1,000字以上2,000字程度4,000字以内）。もちろん、未提出の場合、単位は与えられません。

■科目評価基準

単位認定レポート評価30%+スクーリング（実験レポート）評価70%

■レポート提出期限

「心理学実験ⅡA」p.58を参照してください。

■受講上の注意

原則として「心理学実験Ⅰ」から受講してください。「心理学実験Ⅱ」から受講することも可能ですが、その場合は下記の事前学習を必ず行ってください。

- ①「心理学実験Ⅰ」で提示されている事前レポート課題を「心理学実験Ⅱ」受講前に「TFUオンデマンド」上で解答してください。
- ②『福祉心理学科スタディ・ガイド』の「心理学実験Ⅰ」箇所を熟読してきてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

心理学実験Ⅱと心理学実験Ⅰが目的とするものは同じで、実施する実験の内容が異なると考えてください。

主な目的は、因果関係を解明する視点と手法の基礎を身につける、ということです。私たちは自分や他人の行動について、「どうして〇〇な行動をするのだろうか？」と疑問を持った際、「それは△△が原因ではないのか？」と「想像」することができます。しかし、原因だと思いついたものが「真の原因」なのか、それとも他の原因があるのか、確かめるにはどうすればいいでしょうか？この「原因と結果の対応」が先に述べた「因果関係」ということなのですが、この「確かめ方」を知っており実際に行ってみることができるかどうか、「学問として心理学を学んだ者」と「心理（学）好き」との大きな違いになると言えるでしょう。

心理学実験Ⅱは、実験対象とする現象・テーマが異なります。扱う3つのテーマはp.70に示しますが、それぞれのテーマにおいて、どのような行動や心の働きを扱うのか、そこでは何が問題になるのか、どんな疑問がもたれるのか、学んでください。

■講義内容・進め方

このスクーリングでは、「系列学習法」、「色残効」、「認知的葛藤」という3つの実験を体験します。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。実験の実施については、個人作業となります。

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	心理学における実験の意義
2	系列学習法①	テーマ及び実験方法の説明
3	系列学習法②	実験実施
4	系列学習法③	データ分析とレポートの記述法
5	系列学習法④	レポート作成と実験法の観点からの本テーマの振り返り
6	まとめ	実験テーマを通じたまとめ
7	色残効①	テーマ及び実験方法の説明
8	色残効②	実験実施
9	色残効③	データの分析
10	色残効④	実験法の観点からの本テーマの振り返りとレポート作成
11	まとめ	実験テーマを通じたまとめ
12	認知的葛藤①	テーマ及び実験方法の説明
13	認知的葛藤②	実験実施

回数	テーマ	内容
14	認知的葛藤③	データ分析とレポートの記述法
15	認知的葛藤④	レポート作成と実験法の観点からの本テーマの振り返り
16	まとめ	実験テーマを通したまとめ

※それぞれの実験の順序は、変更になる場合があります。

▶実験1「系列学習法」 (担当 平川昌宏)

記憶研究の先駆者といわれるエビングハウスが用いた伝統的な実験材料である無意味綴りを用いて、言語学習実験の代表的な3タイプのうち系列学習法（ある順序で呈示された無意味綴りとその順序どおり覚えさせる実験法）を実習し、系列位置効果（呈示された刺激がはじめの方にあるか、終わりの方にあるか等で学習しやすさに差があること）について調べます。

▶実験2「色残効」 (担当 柴田理瑛)

ある色を一定の時間観察したのち、色の無いところを見ると、これまで観察していた色とは反対の色が見えます（色残効：いろざんこう）。この実験では、色の観察時間が色残効に及ぼす影響を実験的に検討します。

▶実験3「認知的葛藤」 (担当 大関信隆)

既に知っている事実と、新しく得られた情報との間にズレがあることを私たちが認識した場合に、そのいずれかを採用すべきか、という葛藤が生じます。それを認知的葛藤と呼びます。本実験ではストループ課題という古典的な手法を用いて、この認知的葛藤の様相を検討します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング期間中の3つの実験のレポート100%で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、4色ボールペンを準備してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

『福祉心理学科 スタディ・ガイド』のⅡ章を熟読してきてください。福祉心理学科以外の方は、『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなどしておいてください。

レポート学習

■在宅学習9のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	実験と観察 (教科書1) 第2章)	実験的研究と観察的研究の長所と短所を学ぶとともに、因果関係と相関関係を分けて考える重要性を、具体的な実験例をもとに理解する。	暴力的な映像をみると暴力的になるのか、暴力的な性格だから暴力的な映像を好むのか。そこをきちんと確かめるような研究計画は簡単そうで難しいものです。因果関係と相関関係の違いを理解しながら、研究計画を立てる際の留意事項を理解しましょう。
2	実証の手続き (教科書1) 第3章)	研究手続きや質問紙調査における質問項目の信頼性と妥当性の重要性について理解する。	例えば「暴力をふるう」かどうかを測定する時、暴力とは具体的にはどのような行動が含まれるかをきちんと概念規定しておく必要があります。子どもの戦いごっこは暴力か？赤ちゃんが母親の顔をたたくのは暴力か？など、それを決めるのは簡単ではありません。研究者の概念規定に沿った研究計画を立てる重要性について考えてみましょう。
3	独立変数の操作 (教科書1) 第4章)	実証的研究に必要な独立変数と、その設定の難しさについて理解する。	条件の違いさえあればそれが独立変数として使えるわけではありません。実験、研究を実施する際の独立変数の設定の方法については、細心の注意を払うべきであることを考えてみましょう。
4	従属変数の測定 (教科書1) 第5章)	従属変数の設定の方法と、心理尺度の妥当性、信頼性について学ぶ。	従属変数によって、本当に自分の測定したいものが測れているか、本当にその測定結果が安定していて信頼できるものかという点に注意を払うことは大切なことです。さまざまな具体例をもとに、従属変数に対する具体的なイメージを捉えてください。
5	剰余変数の統制 ①：固体内変動の統制 (教科書1) 第6章)	ミュラーリヤー錯視の例を考えながら、実験の目的ではない剰余変数を統制する工夫について理解する。	実験を実施する際には、繰り返しによる疲労や実施の順番など、実験者が独立変数として想定していないような要因も結果に影響します。実験実施の際には、可能な限りこれらの剰余変数を統制することが必要です。どのような工夫が効果的かを考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
6	剰余変数の統制 ②：直接的な統制 (教科書1) 第6章)	実験計画を立てる際に、研究者だけが考えた剰余変数の統制だけでは危険な場合もある。先行研究や文献から、これまでにどのような要因の影響があることが分かっているか、という文献研究の重要性を理解する。	実験を実施したあとで、考慮に入れていなかった剰余変数がでてきてもやり直しがききません。あらかじめ先行研究などから考慮すべき剰余変数を把握しておきましょう。また、交互作用という現象とその解釈について、理解しておくことが重要です。
7	仮説とその検証 (教科書2) IV章49・50 p. 195～204)	心理学研究における仮説の立て方と、仮説を検証するための方法の重要性について理解する。	どのような心理現象に興味をもっていて、それについて今までどのような研究者がどのような特徴を報告しているか、そしてそこから新たな疑問を持つことが研究のはじまりです。その疑問を仮説として具体的に考え、検証するプロセスについてイメージを捉えましょう。
8	独立変数・従属変数とデータ収集法 (教科書2) IV章51 p. 205～211)	仮説を検証するために、どのような独立変数、従属変数を使い、どのようにデータを収集するかが研究を進める上でのポイントになる。この一連の流れを理解する。	データをどのように収集し、まとめ、必要に応じて統計的な検定にかけるとともに、先行研究論文の探し方や引用、参考の仕方について学びましょう。
9	各自が選んだ単位認定レポート課題	スクーリング終了後1課題選択。	選んだ課題のアドバイス・参考図書をよく読んで取り組んでください。

■単位認定レポート課題 スクーリング終了後1課題選択

課題① (担当) 平川昌宏	系列学習において「なぜ系列位置効果が現れるのか」について文献やスクーリングでの体験などを参考にしながら考察しなさい。
課題② (担当) 平泉拓	一般に以前の学習が後の学習に影響を及ぼすことを学習の転移という。以前の学習が後の学習を促進する場合を正の転移、逆に以前の学習が後の学習を妨害する場合を負の転移と呼んでいる。日常生活でみられる上記のような学習の転移の例を示し、説明しなさい。
課題③ (担当) 中村修	次の4つの尺度について、日常生活の中から2つずつ例を挙げて、違いを説明しなさい。また、なぜ尺度をこのような4つに分ける必要があるのか、考察しなさい。①名義尺度 (nominal scale)、②順序尺度 (ordinal scale)、③間隔尺度 (interval scale)、④比率尺度 (ratio scale)。
課題④ (担当) 柴田理瑛	社会的な手抜きと社会的補償とは何かについて文献などを参考に調べなさい。また、なぜこれらの現象が生じるのかについて具体的事例を挙げながら考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

上記の課題から1つ選びp. 58記載の期限内に提出してください。レポート用紙の「課題欄」に課題を、また表紙の科目名の右側に担当教員名を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2,000字程度を標準としますが、最長4,000字程度まで記入していただいても結構です(パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで)。

課題1
アドバイス

スクーリング時の解説、配付する資料を参考にまとめてみてください。

課題2
アドバイス

学習の転移は、さまざまな領域・場面で見られます。スキーを習う前にスケートをマスターしておく、一般的にスキーの初歩の上達は早いでしょう。また、軟式テニスをしてきた人が、硬式テニスに切りかえた場合、ストロークやラケットの持ち方など、軟式独特のくせがなかなか抜けなくて困る場合もあるでしょう。しかし、軟式・硬式を問わないテニスに共通の点も多く学びやすいこともあるはずですよ。

このように、生活の中でさまざまな転移が見られますが、「両側性転移に関連する事例を探して、その事例を詳しく分析し報告してください」というのが課題です。まず両側性転移について一般的な心理学書、心理学辞典などで概念理解とその生起要因について理解したうえで、自分の生活を振り返り、正の事例、もしくは負の事例を探して、分析し報告してください。

課題3
アドバイス

この課題では、4つの尺度の概念弁別がきちんとされているかが評価ポイントとなります。心理学の本というよりも、統計学、心理統計学、心理学研究法などの入門書を参考にされた方がいいかもしれません。例を挙げて説明してもらうのは、調べたことを使って自分で考えたんだ！自分で見つけたんだ！というヨロコビを味わっていただきたいからです。ぜひお書きください。参考図書欄には、手元にあった文献のなかから少しあげておきます。

課題4
アドバイス

下記の参考図書を参考にまとめてください。用語の説明だけでなく、具体的事例に対する自らの考えを必ず述べるようにしてください。

小窪輝吉. (1996). パフォーマンスへの内的誘因が社会的手抜きに及ぼす効果. 実験社会心理学研究, 36(1), 12-19.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjesp1971/36/1/36_1_12/_pdf

内田遼介, 釘原直樹, 手塚洋介, 國部雅大, 土屋裕睦. (2016). “スポーツ集団内における集動的効力感の評価形成過程: 成員の課題遂行能力に着目した検討.” 実験社会心理学研究 56 (1): 33-43.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjesp/56/1/56_1509/_pdf

■参考図書

課題1：スクーリング時の解説、配付する資料を参考にしてください。

課題2：山内光哉・春木豊編著『グラフィック学習心理学』サイエンス社、2001年

課題3：山内光哉著『心理・教育のための統計法〈第3版〉』サイエンス社、2010年

岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997年

吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、2003年

課題4：アロンソン. E. 岡隆訳『ザ・ソーシャル・アニマル 第11版 人と世界を読み解く社会心理学への招待』サイエンス社、2014年

本間道子著『集団行動の心理学 ダイナミックな社会関係のなかで』サイエンス社、2011年

釘原直樹著『グループ・ダイナミクス 集団と群衆の心理学』有斐閣、2011年

山口裕幸著『チームワークの心理学 よりよい集団づくりをめざして』サイエンス社、2008年